

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 答え：打消推量

解説：3人称「雨」。「雨は降らないだろう」。

Q2. 答え：打消意志

解説：1人称「我れ」。「私は行くまい」。

Q3. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止め、「待て」と命じている。「おまえは決して帰ってはならない。ここで待て」。

Q4. 答え：打消当然

解説：主語「子」は世の子一般で、守るべき道理を述べている。「子は親に逆らうべきでない」。

Q5. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。四段「読む」の終止形+まじ。「この手紙は文字が薄くて、読むことができないだろう」。

Q6. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「お客様（まらうど）がいらっしゃる間は、おまえは決して席を立てはならない」。

Q7. 答え：打消意志

解説：1人称。「私は歌を詠むまい」。

Q8. 答え：打消推量

解説：3人称「風」。「風は吹かないだろう」。

Q9. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、この薬を飲んだあとは、決して物を食べてはならない」。

Q10. 答え：打消当然

解説：主語「人」は世の人一般で、守るべき道理を述べている。下二段「忘る」の終止形+まじ。「人は、受けた恩を忘れるべきでない」。

Q11. 答え：打消推量

解説：主語は無生物「月」。形容動詞「明らかなり」はう変型なので、連体形「明らかなる」に付く。「月は明るくないだろう」。

Q12. 答え：打消意志

解説：1人称。「私はお仕えしまい」。

Q13. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、決してこの池の魚をとってはならない」。

Q14. 答え：打消当然

解説：主語「若き者」は世の若者一般で、守るべき道理を述べている。「若い者は、学問を怠るべきでない」。

Q15. 答え：不適當

解説：乳母が若君（言われた相手＝2人称）に、「～こそよからめ（～のがよいでしょう）」とよりよい方を示して勧めている。『風が強いので、今日は高い所にはお登りにならないほうがよいでしょう。庭でお遊びになるのがよいでしょう』と、乳母が若君に申し上げる」。

Q16. 答え：打消意志

解説：1人称。「私もまた、都へは帰るまい」。

Q17. 答え：打消推量

解説：主語は無生物「月」。「月は、まだ西に傾かないだろう」。

Q18. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、宿直（夜通しの番）の夜は、決して眠ってはならない」。

Q19. 答え：打消推量

解説：3人称「かの人」のことを推し量っている。断定「なり」はう変型なので、連体形「なる」に付く。「あの人は、頼りになる人ではないだろう」。

Q20. 答え：打消意志

解説：1人称。下二段「捨つ」の終止形+まじ。「私は和歌の道を捨てまい」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：打消当然（連体形「まじき」）

解説：体言「こと」に係る連体形。「言ふまじきこと」は、人として言うてはならないこと（道理）を表す。「言うべきでないことを言う」。

Q22. 答え：打消意志

解説：1人称。カ変「来」の終止形「く」+まじ（「来る」は連体形なので「来るまじ」とはしない）。「私は二度とここへは来るまい」。

Q23. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、決してこの寺の花を折ってはならない」。

Q24. 答え：打消推量

解説：3人称「隣の人」のことを推し量っている。「隣の人は、このことをまだ知らないだろう」。

Q25. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「まだ若いので、すべてのことを知ることはできないだろう」。

Q26. 答え：打消推量（連体形）

解説：「雪が降らないだろう夜である」。

Q27. 答え：打消意志

解説：1人称「われ」。四段「書く」の終止形+まじ（未然形「書か」には付かない）。「私は、もうあの人に手紙を書くまい」。

Q28. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「法師にこそ問はめ（法師に尋ねるのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。「あれは怪しい者なので、おまえは道を尋ねないほうがよい。あの寺の法師に尋ねるのがよい」。

Q29. 答え：禁止

解説：父が子（言われた相手＝2人称）を戒める言葉。「『あそこへは行つてはならない』と、父が子をいましめる」。

Q30. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「夜明けてこそ出でめ（夜が明けてから出るのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。下二段「出づ」の終止形+まじ。「おまえは、命が危ないので、今夜は出かけないほうがよい。夜が明けてから出かけるのがよい」。

Q31. 答え：打消推量（補助活用「まじかる」）

解説：主語は無生物「風」。補助活用の連体形「まじかる」＋推定「めり」が撥音便で「まじかんめり」となり、「ん」を書かない形。「空の様子を見ると、今夜は風がおさまりそうにないようだ」。

Q32. 答え：打消意志

解説：1人称。「私は忘れまい」。

Q33. 答え：打消当然

解説：主語「世を捨てたる人」（出家した人一般）について、守るべき道理を述べている。下二段「求む」の終止形＋まじ。「出家した人は、名誉や利益を求めるべきでない」。

Q34. 答え：打消推量（尊敬連用と組合せ）

解説：主語は3人称「宮」。尊敬「せたまふ」が付いていても、3人称なので打消推量。「宮は、今夜はお琴もお弾きにならないだろう」。

Q35. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、御前では、決してふさわしくないふるまいをしてはならない」。

Q36. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「この海は、舟でも渡ることができないだろう」。

Q37. 答え：打消当然（連体形「まじき」）

解説：「～まじきものぞ」と、世の人が守るべき道理を述べている。「はかない約束は、結ぶべきでないものだぞ」。

Q38. 答え：打消意志

解説：1人称「われら」。下二段「別る」の終止形＋まじ。「私たち二人は、命のあるかぎり別れまい」。

Q39. 答え：打消推量

解説：受身「る」終止形＋「まじ」。「その所領は奪われないだろう」。

Q40. 答え：禁止

解説：母君が姫君（言われた相手＝2人称）を戒める言葉。下二段「出づ」の終止形＋まじ。「『御簾の外に出てはならない』と、母君が姫君をおいましめになる」。

Q41. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「得」はア行下二段で、終止形は「う」（「え得まじ」は「えうまじ」と読む）。「クラゲの骨は、どんなに探しても手に入れることはできないだろう」（ありえないもののたとえ）。

Q42. 答え：打消推量

解説：3人称「かの翁」のことを推し量っている。「あの老人は、この宝を人に売らないだろう」。

Q43. 答え：打消当然（連体形「まじき」）

解説：体言「御つとめ」に係る連体形で、守るべき道理を表す。「怠るべきでないお勤めである」。

Q44. 答え：打消意志（連用形）

解説：「見す」終止形＋「まじく」連用形。「人に見せまいと思う」。

Q45. 答え：打消意志

解説：1人称。サ変「す」の終止形＋まじ。「私は、これからは、あやまちをするまい」。

Q46. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、決して人の物を盗んではならない」。

Q47. 答え：打消推量（補助活用・過去）

解説：主語は無生物「水」。補助活用の連用形「まじかり」＋過去「けり」。「この川の水は、すぐには澄みそうになかった」。

Q48. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「家にて養はむこそよからめ（家で飼うのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。下二段「捨つ」の終止形+まじ。「おまえ、この猫はかわいそうだから、捨てないほうがよい。家で飼うのがよい」。

Q49. 答え：打消当然

解説：主語「人に仕ふる身」（仕える者一般）について、守るべき道理を述べている。「人に仕える身は、主人に背くべきでない」。

Q50. 答え：打消意志

解説：1人称「われ」。「私は、このことは人に話すまい」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：打消推量（尊敬+まじ）

解説：主語は3人称「上（帝）」。「尊敬「らる」が付いていても、3人称なので打消推量。「帝は、この歌をよいとおっしゃらないだろう」。

Q52. 答え：打消意志（係助詞「ぞ」の結びで連体形「まじき」）

解説：1人称「われ」。下二段「見捨つ」の終止形+まじ。係助詞「ぞ」の結びなので連体形「まじき」。「私は、この人こそは見捨てまい」。

Q53. 答え：打消当然（連体形+逆接「を」）

解説：前半は、世の親一般が守るべき道理を述べている。連体形「まじき」+接続助詞「を」（～のに）。「親は子のことと迷うべきではないのに、やはり（子を思う）心の闇に迷ってしまった」。

Q54. 答え：打消当然（「こそ」の結びで已然形「まじけれ」）

解説：主語「学ぶ人」（学ぶ者一般）について、守るべき道理を述べている。上二段「恥づ」の終止形+まじ。係助詞「こそ」の結びなので已然形「まじけれ」。「学ぶ人こそ、知らないことを尋ねるのを恥じるべきではない」。

Q55. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。下二段「経」の終止形「ふ」+まじ。「人の身は、千年を過ごすことはできないだろう」。

Q56. 答え：禁止

解説：女が男（言われた相手=2人称「君」）に、「ゆめ（決して）」と強く止めている。『『あなた、決してこの約束をお破りになってはなりません』と、女が男に言う』。

Q57. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「御簾の外にこそ候はめ（御簾の外に控えているのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。「宮はご気分がすぐれないので、おまえは、あまりおそば近くには参上しないほうがよい。御簾の外に控えているのがよい」。

Q58. 答え：打消推量

解説：主語は3人称「帝」。尊敬「給ふ」が付いていても、3人称なので打消推量。「帝は、今年は位をお譲りにならないだろう」。

Q59. 答え：打消当然（連体形）の二重否定

解説：「法師」という立場の道理を述べている。四段「詠む」の終止形+まじ連体形「まじき」+断定「なり」連用形「に」+「あらず」。「法師であつても、歌を詠むべきでないということはない（詠んでもよい）」。

Q60. 答え：打消意志

解説：「」の中は話し手自身のことで、主語は話し手（1人称）。『『もう人にも会うまい』と言って、山にこもった』。

Q61. 答え：打消当然

解説：主語「軽き身の者」（身分の低い者一般）について、守るべき道理を述べている。「身分の低い者は、身分に過ぎた位を望むべきでない」。

Q62. 答え：打消意志

解説：1人称。「私はこの暗い道で迷うまい」。

Q63. 答え：打消当然

解説：主語「人を使ふ身」（人を使う立場の者一般）について、守るべき道理を述べている。ラ変「あり」には連体形「ある」に付く（「あるまじ」）。「人を使う立場の者は、心が狭くあるべきではない」。

Q64. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「潮が満ちてくるので、渚にはとどまることができないだろう」。

Q65. 答え：打消推量（伝聞「なり」と接続）

解説：3人称「かの人」のことを推し量っている。補助活用の連体形「まじかる」＋伝聞推定「なり」が撥音便で「まじかなり」となり、「ん」を書かない形。「あの人は、出家しないということだ」。

Q66. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢら」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえたちは、決してひどく騒いではならない」。

Q67. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。下二段「越ゆ」の終止形＋まじ。「この山道は雪が深くて、越えることはできないだろう」。

Q68. 答え：打消当然

解説：主語「宮仕へする人」（宮仕へする人一般）について、守るべき道理を述べている。下二段「見す」の終止形＋まじ。「宮仕へする人は、みっともない身なりを人に見せるべきでない」。

Q69. 答え：打消意志

解説：1人称。ラ変「侍り」はラ変型なので、連体形「侍る」に付く。「私はお供としてお仕へするまい」。

Q70. 答え：打消意志

解説：1人称「われ」。下二段「やむ（やめる）」の終止形＋まじ（「やめる」は今のことば）。「私は、年をとっても、学ぶことをやめまい」。

Q71. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「心をよく見てこそ信ぜめ（心をよく見てから信じるのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。サ変「信ず」の終止形＋まじ（連体形「信ずる」には付かない）。「おまえ、世の中にはうそが多いので、たやすく人を信じないほうがよい。心をよく見きわめてから信じるのがよい」。

Q72. 答え：打消推量（尊敬「る」と組合せ）

解説：主語は3人称「大臣」。四段「乗る」の未然形「乗ら」＋尊敬「る」の終止形＋まじ。敬語が付いていても、3人称なので打消推量。「大臣は、今日はお車にもお乗りにならないだろう」。

Q73. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめ（決して）」と強く止めている。カ変「来」の終止形「く」＋まじ（「来る」は連体形）。「おまえは、決してこちらへは来てはならない」。

Q74. 答え：打消当然（連体形）

解説：「～まじきものなり」と、世の人が守るべき道理を述べている。「あきれるようなお振る舞いは、許すべきでないものである」。

Q75. 答え：打消意志

解説：1人称。「私は命を惜しむまい」。

Q76. 答え：不適當

解説：女房が中将（言われた相手＝2人称）に、「明日の夜こそよからめ（明日の夜がよいでしょう）」とよりよい方を示して勧めている。『夜も更けたので、今夜は浮かれてお出かけにならないほうがよいでしょう。明日の夜がよいでしょう』と、女房が中将に申し上げる。

Q77. 答え：不可能（連用形「まじく」＋「もあらず」の二重否定）

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。上二段「起く」の終止形＋連用形「まじく」＋係助詞「も」＋「あらず」。「明け方に、起きることができないわけでもない」。

Q78. 答え：打消推量（係助詞「ぞ」の結びで連体形「まじき」）

解説：3人称「この君」のことを推し量っている。サ変「おはす」の終止形＋まじ。係助詞「ぞ」の結びなので連体形「まじき」。「この若君こそ、この世に長くはいらっしやらないだろう」。

Q79. 答え：打消当然

解説：主語「仏に仕ふる人」（僧一般）について、守るべき道理を述べている。「仏にお仕えする人は、生き物を殺すべきでない」。

Q80. 答え：不適當

解説：2人称「なんぢ」に、「言ひかはさむこそよからめ（言葉を交わすのがよい）」とよりよい方を示して勧めている。上二段「過ぐ」の終止形＋まじ。「昔からの友だちなものだから、おまえは、知らないふりをして通り過ぎないほうがよい。ひと言でも言葉を交わすのがよい」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：打消推量

解説：3人称「この家の主」のことを推し量っている。「この家の主人は、今夜は帰らないだろう」。

Q82. 答え：打消意志

解説：1人称。下二段「分く」の終止形＋まじ（連体形「分くる」には付かない）。「私は、心を二つに分けまい」。

Q83. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめゆめ（決して）」と強く止めている。「おまえは、決して人の過ちを笑ってはならない」。

Q84. 答え：打消推量

解説：主語は無生物「御才（学問の才能）」。「すばらしい学問の才能は、誰にも劣らないだろう」。

Q85. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「これほどの人には、二度と会うことはできないだろう」。

Q86. 答え：打消当然（連体形）

解説：「～まじきものなり」と、世の人が守るべき道理を述べている。サ変「す」の終止形＋まじ（連体形「する」には付かない）。「おおよけの文書は、おろそかにするべきでないものである」。

Q87. 答え：打消推量（連用形「まじく」）

解説：主語は無生物「花の色」。下二段「衰ふ」の終止形＋連用形「まじく」＋「見ゆ」。「花の色は、まだ衰えそうにないように見える」。

Q88. 答え：打消意志

解説：「信義を破るまいと誓う」。

Q89. 答え：打消推量（尊敬と組合せ）

解説：主語は3人称「大将殿」。尊敬「たまふ」が付いていても、3人称なので打消推量。「大将殿は、今日は参上なさらないだろう」。

Q90. 答え：禁止

解説：2人称「なんぢ」に「ゆめゆめ（決して）」と強く止めている。上一段「見る」の終止形+まじ。「おまえは、決してこの箱を開けて見てはならない」。

Q91. 答え：不可能

解説：副詞「え」が「まじ」と呼応しているので不可能。「足を痛めているので、都までは歩くことができないだろう」。

Q92. 答え：打消当然

解説：主語「もののふ」（武士一般）について、守るべき道理を述べている。「武士は、主君のためには命を惜しむべきでない」。

Q93. 答え：打消意志

解説：1人称。サ変「す」の終止形+まじ（未然形「せ」には付かない）。「私は、もう思い悩むことはするまい」。

Q94. 答え：打消推量

解説：主語は無生物「宴」。ラ変「あり」の連体形「ある」+まじ。「これほどすばらしい宴は、二度とないだろう」。

Q95. 答え：打消当然

解説：主語「位高き人」（身分の高い人一般）について、守るべき道理を述べている。「位の高い人は、軽々しいことを言うべきでない」。

Q96. 答え：打消当然（連体形+逆接）

解説：前半は「歌詠む人」が守るべき道理を述べている。上二段「過ぐ」の終止形+連体形「まじき」+接続助詞「を」（～のに）（連体形「過ぐる」には付かない）。「歌を詠む人は、この歌を知らずに過ぐすべきではないのに、私は知らないまま過ごしてしまった」。

Q97. 答え：打消意志

解説：1人称。「私はこれより一歩も退くまい」。

Q98. 答え：打消当然

解説：主語「近く仕うまつる人」（おそば仕えの者一般）について、守るべき道理を述べている。「おそば近くお仕えする人は、お言葉がなくては、御前から下がるべきでない」。

Q99. 答え：打消推量

解説：主語は無生物「この寺」。「経とも」は下二段「経（ふ）」の終止形+逆接の假定「とも」。「滅ぶ」は四段・上二段の両方に活用し、終止形はどちらも「滅ぶ」。「この寺は、千年たっても滅びないだろう」。

Q100. 答え：打消意志

解説：1人称。「私は学問の道をゆるがせにすまい（サ変「す」終止+まじ）」。